SDGs新聞	日本調剤株式会社

「ジェネリック医薬品」はみんなのたからもの！

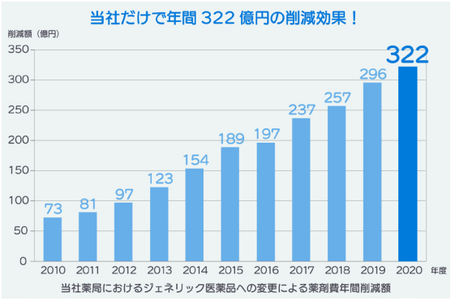
SDGsラジオを読んでみよう！

「ジェネリック医薬品」という言葉を聞いたことがありますか？
まず新しい薬ができると、その薬の作り方を、最初に考えた人しか作ることができません。
でも、しばらく時間が経つと、誰でもその薬を作れるようになり、その薬の作り方は「社会みんなで使える財産」になります。
そして、こうして作られた薬をジェネリック医薬品と呼び、価格が安く、
また、より飲みやすいように大きさや形、味などが工夫されていることが特徴です。
このジェネリック医薬品を、もっとたくさんの人に届けるために、全国で薬局を運営する「日本調剤」では、
約700種類のジェネリック医薬品を扱っています。みんなの財産をみんなで共有。
買いやすい薬、「ジェネリック医薬品」が広まれば、社会全体の健康にもつながります。
みなさんも、みんなが幸せになるアイデアが思いついたら、ぜひ、周りの友達に教えてあげてくださいね。

SDGsラジオの内容を、もっと詳しく知ろう！

画像参照：「ジェネリック医薬品」イメージ画像
（日本調剤公式HPより）

新薬は、たくさんのお金と時間をかけて開発されるため、開発した企業はその薬を独占的に作ったり、販売したりできる「特許」という権利を持つことができます。そういった理由から、新薬の価格は高くなります。しかし一定の期間が経つと、その薬は別の企業でも同じ成分で作れるようになり、こうして生まれた薬が「ジェネリック医薬品」です。ジェネリック医薬品は新薬に比べて価格が安く、また、より飲みやすいように大きさや形、味などが工夫されていることも特徴です。
「薬」とは、「新薬を開発する企業の人」や「その薬を飲む人たち」によって育てられ、やがて、その薬を誰でも作ることのできる「社会の財産」になります。全国で薬局を運営している「日本調剤」は、このすばらしい財産から生まれたジェネリック医薬品を積極的に扱い、その普及に努めています。



画像参照：「日本調剤におけるジェネリック医薬品への変更による
薬剤費年間削減額」（日本調剤公式HPより）

薬の値段が下がると、より多くの人が治療を安定して続けることができるようになり、国民全体の健康にもつながっていきます。日本調剤が、「日本調剤が運営する薬局の患者さんたちが、新薬からジェネリック医薬品へと変更した場合」の削減効果を算出したところ、なんと、年間で300億円以上になりました。日本調剤の薬局では、約700種類ものジェネリック医薬品を取り扱い、「新しい薬とジェネリック医薬品の価格の違い」を患者さんに知らせる「差額通知」を行うなどし、ジェネリック医薬品を積極的におすすめしています。

キーワード

新薬

新しく作られた薬のことです。病気を治すために、長い時間とたくさんのお金をかけて研究されて作られます。
新薬は初めて使われるので、「特許」に守られた期間があります。

特許

新しい技術や製品を開発した人や企業が、その技術・製品を独占して作ったり、売ったりできる権利のことを「特許」といいます。

差額通知

新薬とジェネリック医薬品との「価格の差」を患者さんに知らせることです。

対象ゴール

みなさんにできること！

ジェネリック医薬品についてさらに理解を深め、家族みんなで話し合ってみましょう。

おさらい

- ジェネリック医薬品は、新薬より価格が安い。
- 新薬は一定の期間、「特許」によって守られている。
- 新薬の特許の期間が終わると、他の会社もその薬を「ジェネリック医薬品」として作れるようになる。

メモ

SDGsラジオ